



内田 弘恵・保知
熊本市中央区大江にある「ミドリネコ舎」のオーナー兼バイヤー。店で扱うものも、家に置くものも、本当にいいと思ったものだけを取り入れる。夫の保知さんは広告専門のフォトグラファー。ちなみにカレーの腕はプロ級！

アートと夫婦。

アートと暮らす2組の夫婦。さまざまな表情を持つ空間に、豊かに暮らすヒントを探しに出かけた。

美術館のような、雑貨店のような。世界各国から集めたハートウオーミングな。

惚れこんだものたちと、時を重ねる幸せ。

ふたりの愛猫を迎えられ足を踏み入れたリビングは、くつくつと煮込まれたスパイスカレーの香りがした。

雑貨・文房具の店「ミドリネコ舎」オーナーの内田弘恵さんとフォトグラファーの保知さん夫婦の家は、まさに「おもちゃ箱をひっくり返した」という表現がぴったりだ。ドイツやアメリカのアンティークの人形、メキシコの木のおもちゃなど、世界を旅する道中で“出会ってしまった”作品ばかり。手にとり眺めていると、フェルトのライオン、アイアンのハリネズミ、陶器のフクロウ…動物ものが多いことにふと気がついた。大好きな猫モチーフの作品はもちろん、リビングに飾られている大きな絵も魚。お気に入りのアート・ブックもだ。「ぜんぶ目があったから連れて帰ってきた。言われ

てみると確かに、不思議な生きものものが多いかもしれない(笑)」。ほかに熊本在住の画家ADOのオブジェやアサで活動するキタカゼパンチの初期の絵など、部屋のあちこちにアートがある。ミニマムな空間で、ものが多いのに雑多な印象を与えないのは、什器を木で統一しているためだろう。

創業13年目を迎えた「ミドリネコ舎」は雑貨店であり、時にギャラリーになり、アーティストとの交流の場にもなる。店主として本当にいいと思うものをお客さんに紹介しつつ、自分も気に入ったものは持ち帰り、暮らしに取り入れる。一つひとつのものの来歴を尋ねると、すぐに数十分は話が広がる。雑貨店主としての彼女の視点は、「個性をつくる部屋」の新しい可能性を広げていく。



3



4

1 国内外問わず、つくり手の息遣いを感じようような温かみのある作品を好む。

2 160種類以上の動物を銅版画のような細かい線で描いた洋書の動物図鑑。

3 熊本のギャラリーでひと目ぼれたオブジェ。独身時代から一緒。

4 長崎在住の画家・最迫賢太郎さんの作品。家のとところにある絵は、気分や季節によって都度変えていく。



2



1



2



3

1 真平さんが手がけるガラスの照明“キャンディポット”(受注生産)がリビングの印象を決定づける。ポップなカラーリングは、自然からインスピレーションを受けることが多い。

2 くじやりと曲がった木の表情が豊か。木や石を使う彫刻作家・藤本イサムさんの作品が、くつろぎのリビングでひと際異彩を放っていた。

3 玄関から入ってすぐの階段下に飾られたリトグラフは、京都で購入したお気に入り。絵の内容は季節に応じて変えているそう。

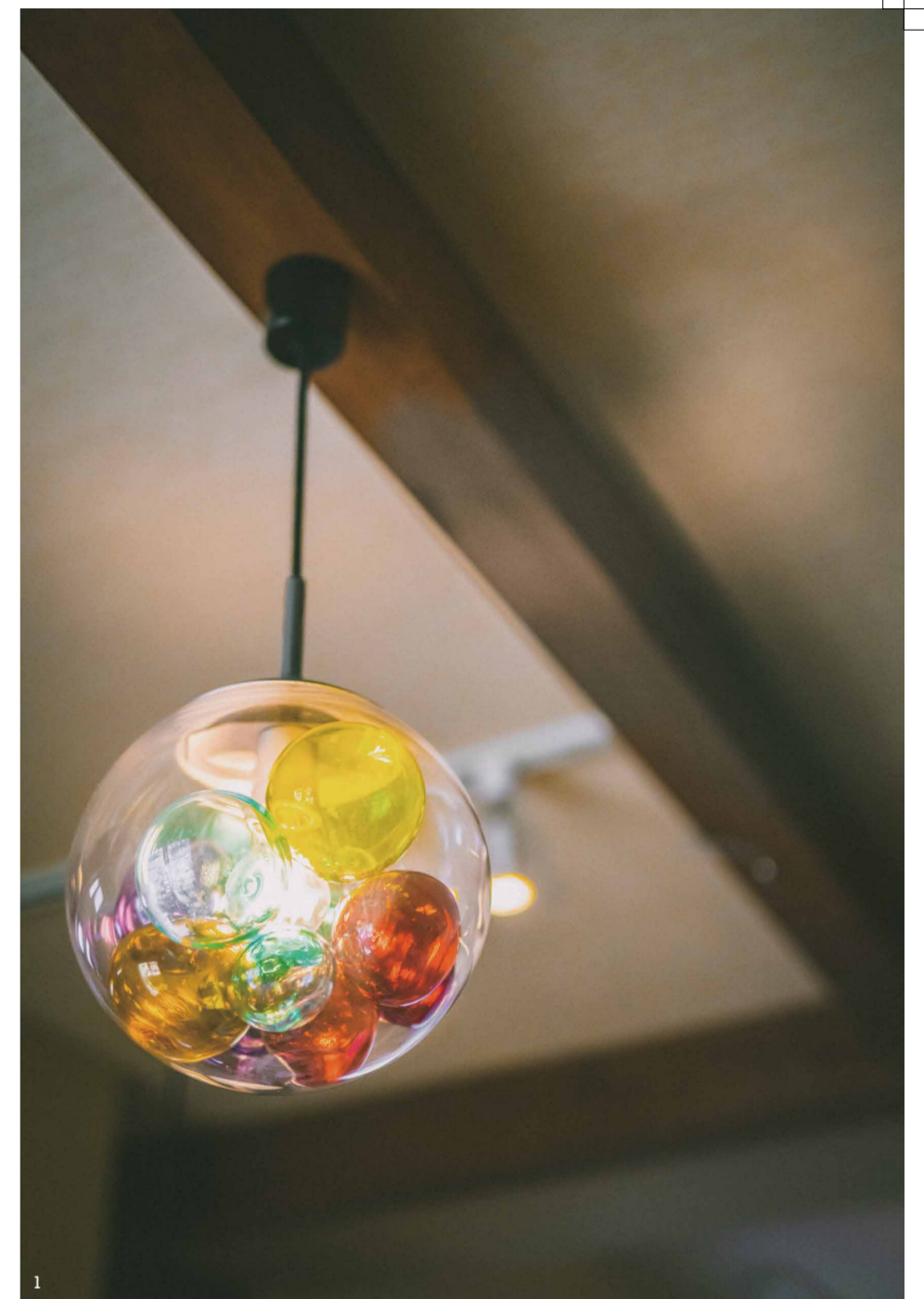
身近にあると思うだけで、心が嬉しくなるものを。

ガラス工芸作家であり「島田美術館」の息子である島田真平さんとフラワーアーティストの忍さん夫婦が住む家は、ふたりが積み重ねてきた時間を受け止める、成熟した空間だった。真平さんがつくるガラスのフラワーベースに飾られた花は、忍さんが生けたもの。どれもさりげないけれど、家のいたるところ、あるべきところで絶妙にフィットしているのがわかる。

カラフルなキャンディを閉じ込めたような自作のガラス照明“キャンディポット”がほっかりと浮かぶりリビング。夫婦が長い時間を過ごす空間は、彫刻作家のウッズツール、画家のリトグラフ、オールドベルシャの絨毯…古今東西さまざまなアートが集結し、ワンフロアでさまざまな雰囲気を持たせている。

「暮らしの喜びは、1点もの取り入れることで増していくもの。もう次は出会えないかも…と思うついほっとけなくて(笑)」。なるほど、ふたりの「好きなもの」が真平さんのガラス作品とおおらかに調和しているのは、それぞれの作家との出会いを愛おしみ、その作品への尊敬がにじみ出ているから。「生活に必ずしも必要かと聞かれると、そうではないですね。でも、家にあることでなんか楽しい。嬉しくなる。そんなものに惹かれます。特に“自分のなかから湧き出たものを表現した”というスタンスの方に会えると、アートってやっぱりいいなと思いますね」。

家は、変化し続ける暮らしを包む箱のようなもの。暮らしは変容する。だからこれからも、アートとの幸せな出会いをふたりでいっぱい楽しむ予定です。



1



島田 真平・忍
1975年生まれのガラス工芸作家、SHIMADA SHINPEI GRASS WORKS主宰。実家は熊本市西区島崎にある「島田美術館」。フラワーアーティストである忍さんの実家は、地域の冠婚葬祭を支える玉名の花屋「フロリストかざや」。

14